

2005-02-02 Wednesday

下北沢再開発：誰のためのパブリックコメント

去年の輸入権・貸与権騒動のとき以来、法律案や条令案、行政プランに対するパブリックコメントを積極的にしていこう、という動きがネット上でも盛んになってきて、とてもよいことだと思う反面、やはりパブコメはガス抜きに過ぎないのではないか、と思わされることも何度もある。下北沢再開発の地区計画に関する区民からの「意見・提案」を受け付けは1月末で締め切られたので、集まった「意見・提案」を勘案しつつ、区は具体的な素案づくりにとりかかることになる。そして、この素案が通れば事業認可が降り、地上げや立ち退きが始まり、道路建設着工が可能になる。

ところで、世田谷区のサイトをばらばらみていたら、昨年8月に行なわれたという「世田谷区道路整備方針」の中間見直しの結果が載ったページにたまたま行き着いた。まさにいま問題になっている「補助54号線」、つまり下北沢の高層ビル街化を可能にするための動脈道路に対する区民からの「意見・提案」もここに載っている。

<http://www.city.setagaya.tokyo.jp/topics/douro/housin1610.htm>
<http://www.city.setagaya.tokyo.jp/topics/douro/ikengaiyou.pdf>

PDFで公開されているのは、『「道路整備方針の中間見直し(案)」に対する意見・提案の概要と世田谷区の考え方』という書類で、ここにはこんな数字が載っている。

	推進すべき	計画反対	提案計
補助54号線	5	3897	3902

『下北沢の魅力を破壊する道路計画を見直してください。』という3,897名の署名によるものです。

去年の夏の時点では、突然降ってわいた「補助54号線」の建設計画に対して、ともかくも圧倒的多数が署名を通して反対を表明した。それに

対する区の返答もこの書類にある。

北沢・代沢地区の閑静な住宅街、下北沢地区の雑然としたにぎわいは、長年多くの人に愛されており、時間をかけて形成されたもの。一旦道路によって破壊されると2度と取り返すことはできない。既存の町並みを損なわず、大幅な住環境の破壊を伴わない計画への見直しを希望する。

というまっとうな「意見・提案」に対する、いかにも役人的な区の回答は以下。

当該区間を含む都市計画道路補助 54 号線は「世田谷区防災街づくり基本方針（平成 10 年 9 月）」及び「防災都市づくり推進計画（平成 16 年 3 月：東京都）」において、「延焼遮断帯」として位置付けられており、「延焼遮断帯」で囲まれた区域を『防災生活圏』とし、東京都及び世田谷区は「火を出さない、火をもらわない」まちづくりに取り組んでおります。当該路線は、災害時の延焼遮断としての機能や避難路、救援活動時の輸送ネットワークなど区民の生命・財産を守るため、また、広域ネットワークの構築や住宅地への通過交通の排除、商業地の利便性の向上を図るため、地域にとって大変重要な路線であり、計画の見直しは考えておりません。

区は、下北沢のまちを、あらゆる世代の方々が楽しめる歴史と文化のあるまちと考えております。従いまして、整備にあたっては、そのような環境に配慮した整備を検討してまいります。区は、下北沢の総合的な街づくりを進めていく方針から、商店街や地元住民の意向を踏まえながら、平成 15 年 4 月に「駅周辺街づくりの整備計画」を策定、平成 16 年 5 月には「下北沢駅周辺地区地区街づくり計画」を策定し、街全体が持っている魅力を一層引き出し、さらに発展させ、『生活と文化を育み、地域の“心”となる安全で住みよい賑わいの街』の実現に向けて、積極的に街づくりに取り組んでいるところです。

しかし、下北沢全体の再開発計画が明らかになった今から逆算してみれば、この「防災街づくり」のための道路という答えは非常に苦しい。小田急との連続立体交差による下北沢駅周辺の容積率の緩和と高度利用が第一目的であることは、その後の進め方をみても明らかだ（補助54号線の存在が「不可欠」なのは、なにより「連続立体交差事業」にとってである）。

それなのに、先に道路整備の名のもとに、現状は存在もせず、また必要性も疑わしい道路を「防災」の一点（まさに脅し）でゴリ押しし、圧倒的な反対意見の表明があっても「計画の見直しは考えておりません」と無視しておいて、あとから駅周辺の地区計画案を（しかもこっそり）公表して、地域内の人間だけの意見を問うというのは、イカサマと言われてもしかたないやり口だろう。あの地区計画案を可能にするため（法的根拠を得るため）にこそ、あの太い道路は必要だったのだから、どうしても先に通す必要があったのだ。でも、本来さきに問うべきなのは地区計画の是非であり、それが支持されてはじめて、新たな道路を街を壊してまでも通すかどうかを決める、というのが筋だったろうに。

というわけで、ぼくとしては1月末に締め切られた「地区計画骨子案」への住民の「意見・提案」も、補助54号線のとときと同様、いくら反対が多くても、そのまま握りつぶされるだろうと考えている。やはり、目に見える（つまり公開の場での）意見表明と質疑応答が必要だ。なぜなら骨子案が通れば、あとは大急ぎで（たぶんすでにできている）素案が示され、住民が嫌がってもそれが通ることはまず、火を見るより明らかだからだ。

SAVE THE 下北沢 (<http://www.stsk.net/>) は、もっと時間をかけた対話と説明を区に求める要望書を提出するセレモニーを、2月3日に北沢タウンホールで行なうという。これを取材しに、雑誌や新聞の人、フリーのジャーナリストはぜひ来てほしい。一種の示威行動ではあるけれど、公開の場での意思表示は必要だ。あまりに密室で、すべてが決まりすぎる。以下はその告知。

2005年1月19日から4回にわたって、区の下北沢地区の地区計画骨子案ブロック説明会がおこなわれましたが、この説明会では街がどのように変わっていくのか、結局よくわかりませんでした。しかし区はこの意見交換会ののち、3月下旬には骨子案を素案として地元に説明しようという大急ぎのスケジュールをたてています。

そこで、このことに不安を感じている近隣住民の方・下北沢在勤の方たちが、区に対して、もっとゆっくりとしたスケジュールでわかりやすい説明と話し合いの場を求めていこうという署名をおこない、要望書を提出するセレモニーをおこないます。近隣にお住まいで、まだこの署名に参加していない方も、是非この機会にご参加ください。

日時：2005/2/3(木) 15:00 から 30分程度 場所：北沢タウンホール1階ロビー集合

さいわい、この問題への関心は広がっていて、賛同者も着実に増えている。

<http://www.stsk.net/sandousha.html>

作家のよしもとばななさんも、こないだ下北沢の路上で賛同者に加わってくれたという。まだまだ、諦めるのははやい。

#

昼過ぎまでは下北沢にいたのだが、その後は仕事で都合がつかずセレモニーには参加できなかったけれど、3日の要望書提出はつつがなく終わったとのこと。また、ぼくも購読しているSTSKのメーリングリストでは「パブリックコメントはきちんと出した方が良く、少なくとも役所の人間は寄せられた意見はきちんと読まねばならず、数が多ければ無視できない」との発言が。そうか、あんまりネガティブにとらえるばかりではいけないな、と反省。たしかに、役所との対立をあおってもしかたがない。政策の方向を変えたいのなら、みずから代案を打ち出し、政策をそちらに誘導していけるような知恵がいるのだな。MLではそうした議論がかなり具体化しているので、ぼくも勉強になる。

それから、あす土曜の日本経済新聞の朝刊、東京欄に下北沢再開発の記事が載るとのこと。要チェック。

#

追記：日経の記事は両論併記ながら、問題のありかをうまくまとめた良い記事だった。

下北沢フォーラム

下北沢再開発の問題について、住民の側から具体的に対案を示していくためのネットワーク、下北沢フォーラムでもパブリック・コメントへの参加を呼びかけている。

下北沢フォーラムのブログ <http://blog.livedoor.jp/shimokitazawaforum/>

意見募集は1月末までだとすっかり思いこんでいたけれど、2月半ばまで大丈夫のよう。ようするに、地区計画の賛否だけに限らず、下北沢再開発全般（補助54号線建設の是非、駅前広場のあり方、高度・容積率制限の緩和、防災のあり方、等々）について、いまは意見を表明する絶好の（そして、もしかしたら唯一の）チャンスのような。ちょっとポイントを絞って、ぼくも意見を書いてみよう。ちなみに、パブリックコメントの送り先は以下。北沢タウンホール7階の窓口に、直接もっていってほしいとのこと。

【送り先】〒155-8666 世田谷区北沢 2-8-18 世田谷区北沢総合支所 街づくり課・下北沢担当北沢タウンホール7階 TEL 03-5478-8074 FAX 03-5478-8019